

とは言うものの、程度問題

漢字の選び方は、原則的に言えば、幼児の喜びそうな漢字ですが、余りにこれにとらわれることもいけません。「易から難へ」というのは、学習の初期においては確かに重要だと思いますが、いつまでもそれでは、難を乗り越えて進む強い人間になれません。

余り消化の良い物ばかり食べていたのでは、ちょっと不消化な物を食べたり、食べ過ぎしても病気になりやすい虚弱体質を作る恐れがあるように、余りに用意された教材ばかりで学習していると、ちょっとした難問にはすぐに手を上げてしまう、頭の弱い人間になる恐れがあるからです。

その意味では、この漢字はむずかし過ぎないか、あれもこれもむずかし過ぎないか、と考えるので、少々がむしゃらに選んで、どしどし教えた方が、強い人間を作ることになるのではないかと思います。

ただ、最初から不消化な物を食べさせてはいけないと思います。ある程度まで進んだら、余り神経質にならないことです。

それともう一つ注意すべきことは、「漢字を教えよう」という気持を露骨

に表わさないことです。

「食べ物腹八分目」と言われていますが、何事でもその気持が大切だと思います。親でも教師でも子供を良くしたい余りに教え過ぎるきらいがあります。これは、逆効果を招いて、知識欲の乏しい子供を作る恐れがあります。

幼児は、元来、好奇心が旺盛で放っておいても、あれも知りたいこれも知りたい、と思うものです。だから、好きな絵本に漢字カードが貼られていれば、子供の方から、「これなあに？」と尋ねて来るものです。

質問を待って教えてやれば、子供は満足するし、一度教わっただけで決して忘れませんが、子供が望まないのに教えてやったのでは、覚えなし、万事受け身の消極的な子供になる恐れがあります。